

平成 28 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

カガナ カゲヤマ ホナミ
氏名 影山 穂波

研究期間 平成 28 年度

研究課題名 ジェンダー視点でみるハワイにおける日系人収容所

研究組織

| | 氏名 | 学部 | 職位 |
|-------|-------|-------------|----|
| 研究代表者 | 影山 穂波 | 国際コミュニケーション | 教授 |
| 研究分担者 | | | |
| 研究分担者 | | | |

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究の目的は、ハワイにおいて太平洋戦争中に日系人が収容されていた動向をジェンダーの視点から明らかにすることにある。1941 年の真珠湾攻撃を契機に在米日系人はほぼ収容所に送られたが、日系人が人口の 4 割近くを占めていたハワイでは、全員が収容されることなく、収容所の問題が不可視化されてきた。近年ようやく収容所跡が確定し、**Japanese Culture Center in Hawaii (JCCH)** を中心に研究が進められる中で、多くのライフヒストリー調査が残されてきた。この資料をはじめ、関連する資料をもとに、当時収容されていた人たちの言説から、とくに女性たちにも注目し、日系人収容所について検討することを目指した。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

オアフ島の日系人収容所であるサンドアイランドとホノウリウリを中心に、関連する資料を収集し、その分析を進めた。具体的にはまず JCCH に残されていた、田坂養民 (1980) により執筆された『日系人抑留所 ホノウリウリ秘話』(直筆コピー) を中心に抑留生活の全体像をとらえる作業を進めた。また 2016 年 10 月に JCCH のギャラリーの一部にオープンしたホノウリウリ教育センターの展示資料を視察し収容者の生活を検証した。さらに JCCH が収集してきたライフヒストリー資料を収集し、分析を試みている。現段階ではライフヒストリー資料の分析の途中であるが、これまでほとんど語られてこなかった日系人収容所の動向、位置づけについてまとめたうえで、今後さらに検証を進める予定である。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

オアフ島には太平洋戦争期間中、日系人抑留所としてサンドアイランドとホノウリウリのキャンプが存在した。以前からの排日運動の展開もあり、真珠湾攻撃(1941)の3時間後には戒厳令が敷かれ、帰米二世や日系人指導者などが逮捕された。彼らはまず真珠湾攻撃直後に作られたサンドアイランドキャンプに送られ、その後アメリカ本土のキャンプや1943年に作られたホノウリウリキャンプに移動させられることとなった。人口の4割近くが日本人日系人であったハワイでは、アメリカ本土とは異なり、抑留所に収容された日系人は一部であり、家族単位ではなく個人単位で捕らえられていたが、その中に女性たちも含まれていた。いずれのキャンプも劣悪な環境にあり、いつ解放されるともわからない状況の中、監視されながら日々を過ごすことを強いられていた。本土に送られた抑留者の家族の中には、世帯主の不在に生活が立ち行かず、自ら志願して家族ぐるみで本土の収容所に入所した者もあり、当時の状況の苦しさが想像できる。地獄谷と呼ばれたホノウリウリには370人の日本人日系人が収容された。そのうち女性は7人であった。これらの女性たちはドイツ人女性捕虜とともに生活しており、男女で隔離されて生活していた。田坂(1980)はその中の3人を取り上げている。一人は浪曲師で、日本で浪曲修行をし、ハワイ各島を巡業していたが、1942年にサンドアイランドに抑留されてホノウリウリにきた帰米二世である。太平洋戦争直前の帰布と、得意の芸題が「乃木将軍の一代記」だったことが原因となり抑留されたと記されている。もう一人はホノルル東大寺の尼僧で、宗教家としての指導的役割にあったことが理由となっている。三人目がニイハウ事件の関係者であり、日本軍飛行士を匿い殺された日系人の妻である。日本人日系人への思想的影響力があるとして特別な位置づけにあった彼女たちの状況に関して、さらなる調査・分析が必要であり、今後の課題として残された。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

| | | | |
|--------|------|------|---------|
| ①日系人 | ②収容所 | ③ハワイ | ④ホノウリウリ |
| ⑤ジェンダー | ⑥ | ⑦ | ⑧ |

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

分析を進めたうえ、今後大学紀要等で発表する予定